



2015.11.26 NO.4 (通算 78号)

一般社団法人 自然科学書協会 | 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 | 神保町 101 ビル 1 階 | TEL 03-5577-6301 | <http://www.nspa.or.jp/>

理事長就任のご挨拶

一般社団法人 自然科学書協会

理事長 金原 優



過日開催された自然科学書協会の総会・理事会において理事長に再任されました。一般書・専門書を問わず様々な課題を抱えている出版界ですが、自然科学書協会は日本書籍出版協会その他の出版関連団体と連携し、問題の解決に向けて努力を重ねる所存です。会員各位ならびに業界、関係団体のご指導とご協力をお願い申し上げます。

二年前に理事長に就任して以来、いくつかの問題に取り組んで参りました。従来からの販売・出版活動、読者を対象とした講演会・サイエンスカフェ等の開催に加え、とりわけ昨年は消費税率の変更に伴う書店店頭転嫁問題、定期購読雑誌の年間購読料課税に対して協会として必要な対応を行いました。著作権問題としては今年四月から導入された電子出版権

の創設に対応する出版契約書ひな形を日本医書出版協会の協力で改訂しました。

協会運営上ではこれまでの理事長一名・専務理事一名・常務理事五名という役付理事体制を、理事長一名・副理事長二名という体制に変更しました。並行して理事数もこれまでの一五名以上二〇名以内から一〇名以上一五名以内に変更し、協会運営の負担を軽減しました。

今期も販売・出版、著作・出版権、研修、広報、総務の各常設委員会ならびに税制・再販流通特別委員会を設置し、基本的にはこれまでと同様の活動を展開する予定です。

販売・出版委員会は国内、国外で開催されるブックフェアにおける出版物展示、ならびに全国主要書店と共催で展示活動を行い、自然科学書の流通促進を目指します。著作・出版権委員会は今年創設された電子出版権の設定による電子出版の促進、権利侵害に対する対応等に加え、現在文化庁、政府与党において検討されている教育目的利用における権利制限の拡大、権利制限の一般規定(いわゆるフェアユース規定)等に向けて専門書出版者としての立場を明確にし、安易な権利制限にならないよう慎重に対応したいと思います。税制・再販流通特別委員会では二〇一七年四月に予定されている消費税率一〇%への変更に伴う流通上の諸問題に加え、出版物に対する軽減税率

適用問題に対して取り組みます。出版物に対する軽減税率は世界の多くの国で採用されており、日本においても早晚採用することが求められる問題です。軽減税率が適用になるとした場合に起こりうる将来の消費税還付問題もありますが、消費税非課税とされている医療費、授業料等に対する仕入経費課税の税負担・税転嫁問題は専門書を発行する出版者としては直接の読者・利用者の予算削減につながる大きな問題として税負担の公平性の見地からも看過できない問題であり、関係団体・政府等に働きかけなければならぬ問題であると認識しています。

当協会は来年創立七〇年を迎えます。この節目にこれまでの活動を振り返り、更に日本の科学技術の発展に貢献する理学・工学・農学・医学・家政学の五分野における専門書発行に努めて参ります。今日、日本の科学技術の研究レベルは世界の最先端にあり、今年生理学・医学賞、物理学賞の二分野で連続して日本人がノーベル賞受賞となったことはまさにこのことの表れです。その研究の礎になっているのは当協会会員者(社)が発行する出版物であることは言うまでもありません。今後も発展し続ける科学技術研究の一助となるよう当協会会員者(社)はそれぞれの立場で努力を重ねて参ります。引き続き関係各位のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

副理事長就任にあたって

副理事長 南條 光章

このたびの当協会役員改選にあたりまして、新設の副理事長を仰せつかりました。もとより浅学非才の身でありますがお引き受けいたしました方には、役員と力をあわせて当協会のさらなる発展のため、微力ながら務めてまいれる所存です。会員社の皆様におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、当協会は平成二八年に創立七〇周年の節目を迎えます。また、その間に公益目的支出計画の最終年を迎えます。そして、次年度からは、一般社団法人として一層自主的な運営を担うこととなりますが、まずは、計画終了に向けまして、諸事業を粛々と実行してまいりたいと思います。

当協会は理・工・農・医・家政各分野の出版社が、その時々の問題や課題を解決しつつ、また一方で、会員同士の懇親にも力を注ぎつつ、存在感のある業界団体としての地歩を固めてまいりました。

しかしながら、昨今の出版業界を取り巻く問題や課題は、協会の強固な繋がりだけでは到底解決できません。特に、販売面におきまして取次会社の倒産、書店数の減少等という厳しい状況が現実とし

て現れています。

一方で、今年度のノーベル生理学・医学賞で大村智先生、物理学賞で梶田隆章先生が受賞されたことは、自然科学の発展を陰ながら支える当協会にとりましても大変喜ばしい出来事と特筆されることと思います。会員社の一員として、より一層良書の出版に努めていきたいと意を強くした次第です。

このような現況のなか、協会運営に關しましては、金原理事長のもとにこの二年間で着実な活動を実行してきているところと、特に著作権問題に対しては、その解決に向けて先頭に立つて対応していただいております。さらに、今後の二年間で当協会の目指す中期的な方向性や、存在感のある業界団体としての役割を示していけるよう一層になって取り組んでいきたいと考えております。

今期より、専門委員会の各委員長に若手理事を登用しており、各委員長からは本誌面で抱負を語っていただいております。積極的な委員会活動を通して、当協会会員社へのメリットが存分に発揮できるものと期待しております。

現在、当協会会員社は六七社です。今期より、理事は一五名となりました。会員社の皆様におかれましては、何卒積極的に当協会活動にご協力、ご参加を賜りますよう、切にお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

副理事長就任にあたって

副理事長 筑紫 恒男

八月に開かれた第一回理事会において、金原理事長より副理事長就任を要請され受諾しました。副理事長職は今回新たに作られた職位です。理事長を補佐し、協会内全般を見渡して、十分な活動ができるよう尽力したいと考えています。

ご承知のように、当協会は、戦後日本が科学技術立国として発展できるように必要な自然科学書の出版が健全にできるよう昭和二十一年一月に設立された法人で、来年七〇年を迎えます。

協会の目的は、設立時の会則には「本会は自然科学専門図書出版関係者相互の親睦、連絡並にその文化的使命達成のため調査研究をなし以て斯学の向上に寄与するを目的とす」と記され、一般社団法人となりました現在の定款には、「この法人は会員の信頼と協力によって、自然科学に関する出版事業の文化的使命の達成を図ると共に自然科学およびその応用の進歩向上に寄与することを目的とする」となっています。主旨は発足時のものと変わっていません。まさにこの目的に則り、現在まで活動してきました。

当協会会員社にとどまらず、良質な自然科学書の出版活動ができるようにすることが協会の役割かと思えます。出版界

は知的所有権の問題、出版物電子化の問題、売上の低迷などで揺れ動いています。それらの動きを見極め、協会の活動を如何に展開すべきかを考えたいと思います。副理事長としての職務を追求しつつ貢献したいと存じます。会員社各位のご協力をよろしくお願い致します。

第六五期・六六期専門委員会活動計画報告

●販売・出展委員会

このたび販売・出展委員長の役務を拝命致しました。何かと行き届かない点があるうかと存じますが、牛来副委員長をはじめ会員各社様よりご推薦いただいた精鋭の委員の皆様方の力をお借りして職責を果たしてまいりたいと存じます。

当委員会は、引き続き「東京国際ブックフェア（TIBF）」への参加、「自然科学書フェア」の開催、フランクフルトおよび北京で開催される「国際ブックフェア」への参加の三つの事業を柱として活動してまいります。

来年の「TIBF」は、日程が九月二三日（金）～二五日（日）に変更となります。翻訳権照会の減少などB to Bの交渉・取引のきつかけとなる場の様相は薄れてきていますが、来年はより読者を意識したブックフェアへと変わっていくようです。その分、一般読者の来場が

増えると思われ、できるので、できるだけ多くの自然科学書に触れていただく機会になればと考えます。「自然科学書フェア」は、ネット書店でピンポイントに書籍を探すのとは違い、また書店店頭であつても専門書のコーナーへある程度目的を持って訪れるのとも違い、読者が普段は目にしない新たな書籍と巡り合う出会いが演出できればと考えています。海外の「国際ブックフェア」への参加は、文字通り日本の自然科学書を諸外国に認知してもらうための場と捉えています。

これらの活動を通して、当協会の公益事業の一翼を担ってまいりたいと思ひますので、何卒皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(委員長 池田和博)

●広報委員会

このたび広報委員長を拝命いたしました。何分にも浅学非才のため行き届かない点が多々あるかと思いますが、長副委員長、ならびに六名の委員で責務を果たして参りたいと存じます。

さて、当委員会は引き続き、協会の活動内容および存在意義を会員社や業界全体に広く周知させる使命があり、以下の三点を主な活動内容としております。

一つ目は年四回発行する会報により、会員各社や外部に対し、当協会の活動報告や、有益な情報提供をしてまいります。

なおバックナンバーは当協会ホームページに掲載しておりますので、ご覧下さい。

二つ目は自然科学書協会講演会です。本年八月三〇日(日)に行われた二〇一五講演会も、別掲のとおり大変盛況でありました。二〇一六講演会も目下鋭意検討中ですので、どうぞご期待下さい。

三つ目は協会活動のPRです。ホームページでのPRはもとより、業界紙等関係メディアに当協会の講演会やイベント告知を掲載していただき、多くの方々に活動と存在意義を周知することです。今後とも一層の広報活動を行ってまいりますので、会員各社および関係各位のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(委員長 吉野和浩)

●著作・出版権委員会

近年デジタル化技術の進歩と汎用性の拡大により出版界でも多様な取り組みがなされており、それに伴いデジタル化技術を用いた「違法な複製」の問題をはじめとして著作・出版権に関わる様々な部分で新たな対応が必要となりました。これらの出版物のデジタル化に關した問題に対応するため、本年一月には著作権法の改正が行われました。その中で電子出版権の創設も行われ、当著作・出版権委員会でもそれに伴い今年、電子出版物の出版契約に対応した出版契約書のヒナ型の提示を会員向けに行いました。

また自然科学書協会は出版者著作権管理機構(JCOPY)の構成七団体の一画として運営に協力しておりますが、当協会はJCOPY発足当時より積極的にその活動に参加してまいりました。JCOPYでは現在著作権を管理する機構として、権利を委託する出版者や権利を利用したい利用者にさらに利便性の良いシステムを提供すべく活動しております。当著作・出版権委員会では当協会JCOPY担当理事とともに今後この活動に参加・協力して行く所存です。

当委員会は「出版契約の研究・検討」「複製・転載・引用に関する問題」等、著作権に關した多岐にわたる事象を討議する役割を担っておりますが、引き続き出版界の動向を注視しつつ、自然科学書という専門書を出版する会員各社へ適切な情報発信を行っていききたいと思っております。

(委員長 梅澤俊彦)

●研修委員会

このたび、第六五期・六六期の研修委員会委員長の役務を拝命いたしました。なにぶん委員長として浅学非才の身ではございますが、これまで二回委員長を務められました皆根良介副委員長をはじめとする、経験豊富な各委員の皆様方の力を借りながら、任務を遂行してまいりたいと思ひます。

研修委員会は、会員各社のお役に立つ

研修会・勉強会を、出版梓会、関係団体とも連携しながら企画・開催いたします。とりわけ書籍・雑誌のデジタルコンテンツ化への対応につきましましては、これまでも当委員会の重要課題として取り組んでまいりましたが、昨今いよいよ本格的にコンテンツや流通の電子化が進行する一方、技術環境や市場の動向は日々激変するような状況で、専門書出版社が対応すべき諸問題について検討・情報交換の場をもうけることは、引き続き大切であると考えております。

また、好評を得ております「サイエンスカフェ」のように、自然科学を讀者の皆様により身近に感じていただけるようなイベントも、それぞれの関係者様との連携により引き続き開催できるよう立案してまいります。

会員各社の皆様方よりご意見・ご要望を伺いながら、今後ますます活動を広げ、活性化していけるよう努めてまいる所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

(委員長 朝倉誠造)

●総務委員会

役員改選に伴い、再び総務委員長を拝命した飯塚です。目下のところ大畑秀穂副委員長と宇山委員の三名体制で活動を行ってまいります。

さて、当協会は今、一般社団法人への移行途上にあり、総務委員会は事務局と

ともに法人移行の実務を担っております。
法人移行における最大のハードルは赤字公益事業の完遂であり、その進捗状況は決算総会において「公益目的支出計画実施報告書」を通じて皆様にご報告しているのとおりです。

当期は当協会が内閣府に申請した法人移行計画の最終年にあたります。予定通りに法人移行を完了させたいと考えておりますが、仮に、当期末時点の公益目的財産残額が黒字になると見込まれるような場合は、内閣府に対し、新事業年度が始まる前に公益目的支出計画の延長を申請し、認可を得る必要があります。当協会の顧問公認会計士によれば、公益目的支出計画の再提出から認可までには三ヶ月程度を要すること、逆算すると、年内には見極めが必要になります。

仮に、法人移行期間の延長が必要になった場合、資金繰りの都合上、赤字公益事業以外の諸事業を制限せざるを得ない可能性も出てまいります。法人移行の最終年である当期は、事業計画および収支予算書に基づいた赤字公益事業を確実に実施し、予定通りに一般社団法人への移行を終えたいと考えております。

また、マイナンバー制導入に合わせ、保管方法、諸規定の整備も進めています。今後とも、当協会への一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(委員長 飯塚尚彦)

●税制・再販流通特別委員会

本委員会は、二〇一四年四月一日から消費税率が八%に引き上げられることが決定し、翌二〇一五年一月一日からは一〇%に引き上げられることが予定されたことから、「消費税率変更に伴う経過措置」等への対応も含め、書店店頭における運用が適切に行われるよう日本書籍出版協会その他関連団体と連携して対応するために設立されました。

二〇一四年四月一日の消費税引き上げに際しては、二〇一三年一月一日から二〇一七年三月三十一日まで、出版物への総額表示義務が免除される特別措置、雑誌定期購読等の予約販売に係る書籍等旧税率(五%)の適用期間や特定新聞等の経過措置から雑誌が除外され二〇一四年四月一日以降は雑誌も書籍と同様すべて八%の消費税率での販売となるなど大きな混乱もなく対応することができました。その後、二〇一五年一月一日から予定されていた消費税率一〇%への引き上げは一年半繰り下げて二〇一七年四月一日に延期されましたが、出版業界にとって更なる売上縮小となる危険性を孕んでいるため、書協を筆頭に出版界を挙げて軽減税率適用を求めているところです。ただし、この軽減税率適用問題もその是非、運用上の問題点、仕入消費税の転嫁問題も含めて慎重かつ適切に判断したいと考えております。

また、次の引き上げに際しては、再販制度が関わる商品定価表示や年間購読など出版物固有の課題が依然としてあることから、前回八%移行時の経験を基に、今から二〇一七年の来たるべき日に向けて準備をしておかなければならないと考えているところです。

(委員長 伊藤富士男)

第三回東京国際ブックフェア

去る七月一日(水)から七月四日(土)までの四日間、東京ビッグサイト西ホールにおいて「第三回東京国際ブックフェア」(TIBF二〇一五)が開催されました。当自然科学書協会は、例年と同じく三、五小間のブーススペースで出展し、展示・販売を行いました。

今年の書籍・雑誌の出品冊数は、会員社のうち六〇社からの出品と、一般出品の二社を加えて、総出品冊数は二四六〇冊(昨年二五三六冊)でした。商品展示は各分野別に行いましたが、今年も特別展示コーナーを設けました。展示内容は、昨年好評だった「ビギナーにおすす目で見えるサイエンス」を引き続き展示テーマとしました。今年も読者の方に大変好評で、特に子供向けの本が良く売れていました。また、今年もご来場された読者の方へのサービスを行いました。毎



年大変好評を博している、抽選による図書カードのプレゼントと、各社より提供されたオリジナルノベルティのプレゼントを実施しました。

会期四日間の主催者発表による来場者数は、同時開催展を合わせて、六七七〇人(昨年六二八五五人)と、昨年を大きく上回りました。その効果もあり、当協会ブースでの売上合計は、六七四冊、一五七万円余りとなり、この一〇年間で最高額となりました。皆様のご協力ありがとうございました。

なお、来年のTIBFは、読者向けイベントとして九月二三日(金)から二五日(日)の三日間で開催されます。

(販売・出展委員会 高田光明)

北京国際図書展示会

第二二回北京国際図書展示会（BIBF）が、テーマ国をアラブ首長国連邦として八月二六日（水）から八月三〇日（日）までの五日間、北京市中国新国際展覽センターにて開催されました。販売・出展委員会では、今年もBIBFへの積極的な参加を会員社に促すため、昨年に引き続き、会員社一社につき一〇点まで一点千円の出品料の補助を行いました。その結果、二二の会員社から二三三点（前年より一社減・五八点減※メジカルビュー社が単独出展に変更）の書籍を出品していただきました。

ご協力いただきました会員社の方々には心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

まず、今年の展示スペースについてですが、メジカルビュー社が単独出展になったこと、当協会の出品冊数が昨年より減ったことから、昨年と同じ当協会のみで三ブースの確保が難しくなったため、当委員会で検討し、当協会用の二ブース＋メジカルビュー社で購入した一ブースを間仕切り一枚で合体させた変則三ブースで展開いたしました。（写真参照）

今年は、昨年に比べ当協会ブースへの来場者が多く、版權購入検討用の見本送付の希望も若干ですが増えました。また、会員社個々の書籍への問い合わせの他、「食品」「化学」「栄養」「環境」「公害」関係の専門出版社と連絡が取りたいという問い合わせが二件ほどあったことが特徴的でした。それについては、帰国後、トーハン海外事業部にフォローをお願いすることといたしました。

中国の出版社の編集および版權担当者様と直接ミーティングを行うことで、先方の求めていることが良く分かり、紹介する書籍の幅が広がることで版權売買の契約に結び付くチャンスも増えますので、是非、北京で商談されることをお勧めいたします。

今年は、世界陸上の開催とも重なり、過去五年間で最も空気と天気の良い

BIBFでした。

（販売・出展委員会 三澤 岳）

自然科学書フェア二〇一五

自然科学書協会会員の皆様には、自然科学書フェア二〇一五に、多大なご協力を賜り誠にありがとうございました。六月三日（水）から八月二日（日）まで、京都駅前にある大垣書店イオンモールKYOTO店で開催され、会員社、農業書協会会員社から四三二七冊もの出品がありました。

今年は、「国際土壌年」であることから、農業書協会の協力を得て関連書を集め、特別台の設置やタキイ種苗（株）からの種の展示等で、多くの来店者の方の興味を引くことができました。サイエンスカフェは会期中二回開催し、多くの方に好評でした。

新聞広告では（株）とうこう・あいのご協力により一六社の連合広告を京都新聞に掲載し、その他に朝刊、夕刊においての広告も掲載されました。

こうした広報の後押しもあり、期間中の売上冊数および金額は合計七四四冊、一五九万円余りとなり、当初の目標とした金額に近い売上を計上することができました。イオンモールの中にあることから、平日は学生や年配の方が多く、週末



には家族連れのお客様が多かったようです。七月に入ってから平台の展示を夏休みの自由研究や自然観察の展示に変え売上も伸びましたが、八月初めまでの開催だったため、フェア終了後もお客様からの問い合わせも多くあったようで、今後開催期間を検討することでした。

今回のフェアはテーマを持たせた棚構成や他企業とのコラボ等、新しい試みを行い、今までにない成果を上げられたかと思えます。二〇一六年は三省堂書店池袋本店にて開催いたします。東京では初めての開催となります。皆様の引き続きのご協力をお願い申し上げます。

（販売・出展委員会 諸星安紀）

第六五期・六六期役員（＊は新任）

〈理事長〉 金原 優（医学書院）

〈副理事長〉 南條光章（共立出版＊）

筑紫恒男（建帛社＊）

〈理事〉 朝倉誠造（朝倉書店）

大畑秀穂（医歯薬出版）

曾根良介（化学同人）

長 滋彦（技報堂出版）

牛来真也（コロナ社）

飯塚尚彦（産業図書）

吉野和浩（裳華房）

黒田拓也（東京大学出版会）

小立鉦彦（南江堂）

梅澤俊彦（日本医事新報社）

伊藤富士男

（農山漁村文化協会）

池田和博（丸善出版）

田中久米四郎（電気書院）

山本 格（培風館）

秋元康男

（文化産業信用組合＊）

〈顧問〉 後藤 武（彰国社＊）

朝倉邦造（朝倉書店）

宮部信明（岩波書店＊）

山口雅己

（元東京大学出版会）

平田 直（中山書店）

森田 猛（緑書房＊）

及川 清（養賢堂＊）

第六五期・六六期専門委員会委員

●販売・出版委員会

〈委員長〉 池田和博（丸善出版）

〈副委員長〉 牛来真也（コロナ社）

〈委員〉 上原達史（医学書院）・蛭間

智則（医歯薬出版）・大橋俊彦（井上書院）・

高田光明（オーム社）・坂本亮（化学同人）・

石川省二（金原出版）・木村邦光（共立

出版）・野村 誠（金芳堂・廣田鋭爾（建

帛社）・細谷 淳（恒星社厚生閣）・秋浜

直治（コロナ社）・北川千晃（実教出版）・

宮内耕次（裳華房）・御園英伸（誠文堂

新光社）・山内 裕（第一出版）・中村光

志（電気書院）・諸星安紀（東海大学出

版部）・児島 誠（中山書店）・井上和夫

（南江堂）・馬場一嘉（日本工業出版）・

福田徹哉（農山漁村文化協会）・二村忠

彰（丸善出版）・三澤 岳（メジカルビュ

社）・西村直己（養賢堂）

●著作・出版権委員会

〈委員長〉 梅澤俊彦（日本医事新報社）

〈副委員長〉 黒田拓也（東京大学出版会）

〈委員〉 川口達也（朝倉書店）・天野

徳久（医学書院）・吉田宇一（岩波書店）・

大久保智明（オーム社）・小坂啓之（海

文堂出版）・曾根良介（化学同人）・山口

啓子（学窓社）・飯塚忠夫（鹿島出版会）・

日比野元（共立出版）・長 滋彦（技報

堂出版）・根津龍平（建帛社）・矢吹俊吉

（講談社サイエンスフィク）・大井隆之

（コロナ社）・鈴木正昭（産業図書）・平

沢 健（実教出版）・小野達也（裳華房）・

松田和貴（電気書院）・横井 信（南江堂）・

福田久子（北隆館）・安平 進（丸善出版）・

石黒健治（緑書房）・金子浩平（メディ

カルサイエンス・インターナショナル）・

石田昇司（森北出版）・及川 清（養賢堂）・

嶋田 薫（養賢堂）

●研修委員会

〈委員長〉 朝倉誠造（朝倉書店）

〈副委員長〉 曾根良介（化学同人）

〈委員〉 石黒太郎（朝倉書店）・山田

貴史（化学同人）・島田 誠（共立出版）・

筑紫和男（建帛社）・都築康人（彰国社）・

齊藤 淳（培風館）

●広報委員会

〈委員長〉 吉野和浩（裳華房）

〈副委員長〉 長 滋彦（技報堂出版）

〈委員〉 島 伸行（オーム社）・稲沢

会（共立出版）・國分利幸（裳華房）・外

館あさひ（南江堂）・増田素美（丸善出版）・

森田浩平（緑書房）

●総務委員会

〈委員長〉 飯塚尚彦（産業図書）

〈副委員長〉 大畑秀穂（医歯薬出版）

〈委員〉 宇山閑文（金芳堂）

●税制・再販流通特別委員会

〈委員長〉 伊藤理事

〈副委員長〉 飯塚理事

●七〇周年記念事業特別委員会

〈委員長〉 金原理事長

〈副委員長〉 牛来理事・吉野理事

●出版者著作権管理機構（JCOPY）

〈理事〉 曾根理事・小立理事

〈運営委員〉 梅澤理事・及川相談役

●出版平和堂委員会（日本出版クラブ）

〈委員〉 長理事

編集後記

身も心も巨大な吉野委員長のもと最前線で活躍する八名の猛者（自称）による新広報委員会がスタートいたしました。協会が出版界の高峰であり続けられるように、一専門委員会として後方から協会活動に力添えしてまいります。そのためには工法を間違えずにしっかりと誌面を作成し、きつちりとした航法で会報を発行しなければなりません。公報に載るような講演会も開催いたします。すべきことは盛りだくさんですが、コーホーと呼吸するダースバイダーやウォーズマンよろしく、感情を仮面の下に隠し、会員社は勿論、世間の皆様方に協会活動とその重要性をアピールできるようにメンバー一同頑張つてまいります。（S・O）

■六五期理事会・委員会開催一覧 (二〇一五年六月～一〇月)

●理事会

・六月一八日(木) 六月定例理事会／一五時三〇分～一七時 日本出版クラブ会館

・七月一六日(木) 七月定例理事会／一五時三〇分～一六時三〇分 日本出版クラブ会館

・八月五日(水) 八月定例理事会／一七時～一八時 如水会館

・九月一七日(木) 九月定例理事会／一五時～一七時 日本出版クラブ会館

・一〇月八日(木) 一〇月定例理事会／一四時三〇分～一五時四〇分 日本出版クラブ会館

●正副理事長会議

・八月二七日(木) 一時～一二時 協会事務所

●監事会

・六月三〇日(火) 一二時～一三時三〇分 文化産業信用組合

●専門委員会

・六月二日(火) 販売・出版委員会東京国際ブックフェア幹事会／一五時～一六時三〇分 文化産業信用組合

・六月一〇日(水) 著作・出版権委員会／一五時～一七時 日本出版クラブ会館

・六月一七日(水) 販売・出版委員会／一六時～一七時三〇分 文化産業信用組合

・七月一〇日(金) 販売・出版委員会東京国際ブックフェア運営委員会／九時三〇分～一五時 文化産業信用組合

・七月一〇日(金) 販売・出版委員会自然科学書フェア小委員会／一五時～一六時 文化産業信用組合

・七月一〇日(金) 販売・出版委員会／一六時～一七時三〇分 文化産業信用組合

・七月一四日(火) 広報委員会／一七時～一七時四五分 南江堂会議室

・九月三〇日(水) 販売・出版委員会自然科学書フェア小委員会／一六時～一七時 日本出版クラブ会館

・一〇月二八日(水) 著作・出版権委員会／一五時～一七時 日本出版クラブ会館

・一〇月二八日(水) 広報委員会／一六時～一七時 日本出版クラブ会館

■事務局だより

＜協会代表者の変更＞

●一般社団法人 家の光協会

旧代表者：下川正志

新代表者：高杉 昇

＜住所変更＞

●東海大学出版部

新住所：神奈川県平塚市北金目 四一―一

新電話：〇四六三―五八―七八二

新ファックス 〇四六三―五八―七八三

新ファックス

〇四六三―五八―七八三

●株式会社中山書店

新住所：文京区小日向四―二―六

電話・ファックスは変更なし

サイエンスカフェ開催される

研修委員会では、左記のサイエンスカフェを名古屋と京都において合計三回開催いたしました。

①三省堂書店名古屋高島屋店一五周年記念講演会

平成二七年七月四日(土) 三省堂書店

との共催で、三省堂書店名古屋高島屋店

一五周年記念講演会として講師に荒巻勇

先生(中京大学スポーツ科学部教授)、

コーディネータに野村悦芳氏(中日新聞

社会部記者)を迎え、「スポーツを脳科

学する」と題したサイエンスカフェを開

催しました。

②大垣書店イオンモールKYOTO店

サイエンスカフェ

六月二日から八月二日まで開催された

「自然科学書協会フェア」とのジョイント事業として、サイエンスカフェを二回

開催しました。

六月二〇日(土) 一四時～一五時三〇分

講師：矢内純太先生(京都府立大学 生

命環境科学研究科教授)

演題：「農業と環境の基盤としての土壌

と国際土壌年に考える」

七月二五日(土) 一四時～一五時三〇分

講師：田中正之先生(京都市動物園 生

き物・学び・研究センター長)

演題：「生まれ変わる動物園」その後

演題：「生まれ変わる動物園」その後

演題：「生まれ変わる動物園」その後

演題：「生まれ変わる動物園」その後

演題：「生まれ変わる動物園」その後

演題：「生まれ変わる動物園」その後



いずれの会も聴衆の皆様と活発な意見交換がなされ、まさにサイエンスカフェらしい雰囲気の中、終わることができました。(前研修委員長 曽根良介)

第六五期第一回 定時総会が開かれる

平成二七年七月一六日午後五時より日本出版クラブ会館において一般社団法人自然科学書協会第六五期第一回定時総会が開催されました。

金原理事長が議長に就任し、出席会員社が六一社(議決権行使書による賛成三二社)であり、総会の開催に必要な定足数が確保された旨を会場に報告したうえで、議事録署名人を選出し、議案の審議

が行われました。

第一号議案「第六四期事業報告承認の件」、第二号議案「第六四期収支決算書承認の件」、第三号議案「第六四期公益目的支出計画実施報告書承認の件」および第四号議案「役員任期満了に伴う新規役員選任の件」についてそれぞれ詳細な説明と報告が行われ、いずれも満場一致で承認可決されました。これを受け議長は閉会を宣言したうえで、代表理事選出臨時理事会が別室にて開催されました。金原理事長の任期満了に伴い新理事長の選定について協議し、全員一致をもって金原理事を改めて理事長へ選定することとなり、金原理事は席上その就任を承諾し、臨時理事会は終了、定時総会会場にてその旨を出席社に報告し、総会は終了いたしました。（前総務委員長 長 滋彦）

自然科学書協会講演会二〇一五

自然科学書協会講演会二〇一五が、八月三〇日（日）一五時～一六時四〇分、日本出版クラブ会館（東京都新宿区）にて開催されました。今回の講師は東京大学教授の池谷裕二先生で、講演のテーマは「脳を知って、脳を活かす」。当日参加者は一四四名でした。

当協会・金原優理事長の開会挨拶から始まり、池谷先生の講演へ。知られざる

脳の特徴とともに、最先端の脳科学の成果をわかりやすく紹介していただきました。

まずは、「脳の自発活動」について。脳は外から情報や刺激が入ってこない状態でも、自発的に活動していますが、これまではその自発活動は「脳神経のノイズ」として軽視されがちでした。しかし、脳の自発活動のパターンを調べることで、アルツハイマー病やうつ病などを診断し、自発活動をコントロールすることで治療にもつながる研究プロジェクトが日本でも立ち上げられているということでした。また、ヒトの脳は一度覚えたことを記憶の痕跡として残しており、その痕跡にアクセスできる薬が見つければ、認知症の治療に大きく役立ちます。受験生なども欲しくなるはずの「記憶を取り戻す薬」ですが、決して夢物語でない研究段階のようです。

さらに、磁気や紫外線、超音波などを



人間は感知できませんが、先生の研究室では、地磁気センサーの電子チップをネズミの脳に装着させる実験をしたところ、東西南北を認識して迷路を解くこともできるようになったそうです。これは、先生が進めている「脳創発プロジェクト」の成果の一つで、今まで感知できなかった情報を脳に送れるようにすることで、脳の新しい活用法を探ってゆきたい」という言葉で講演を締め括られました。

講演中のところどころで、目の錯覚を体感できる実験を挟むなどの工夫もあり、参加者の満足度は例年以上に高かったように思います。（前広報委員 柴野 豊）

出版平和堂功労者顕彰会

一〇月九日（金）正午より、神奈川県箱根町芦ノ湖畔にある出版平和堂にて、第四七回出版功労者顕彰会が執り行われました。

二〇一五年八月より出版平和堂の大規模な修繕が行われ、原型は留めつつもとても重厚感のある、明るいお堂に生まれ変わっておりまして。

当日は好天に恵まれた式典となり、維持団体である当協会からは、金原理事長が出席されました。

第一部は各維持団体の代表者による挨拶・新顕彰者（版元関係九名）の奉告、

献詞に続き、献花が行われました。

第二部は箱根ホテルに移動し、顕彰者の方々への敬意と感謝の念を込めて献杯をし、ご遺族・関係者の方々との懇親の場となり、式典は滞りなく閉会となりました。（広報委員会 吉野和浩）



訃報

太田博様株式会社杏林書院会長が平成二七年一〇月二二日にご逝去されました（享年七一歳）
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

太田様の当協会の役員のご経歴は左記のとおりです。

平成二年～一一年 理事

ここにご生前の太田様の当協会への多大なるご尽力に敬意と感謝を申し上げます。